地域が支えた季節保育所

昭和20年代の厚別は純農村でした。1世帯あたりの子どもの数が今より多かったうえ、農作業も田植えから草取り、稲刈りまで手作業が多く、家事、育児、農作業をこなすお母さんたちは朝から晩まで働きづめでした。そんな母さんたちにとって、農繁期に子どもの面倒をみることができないというのが、大きな悩みでした。そこで登場したのが、春から秋の間子どもたちを預かる季節保育所です。厚別では、戦後の昭和20年代に4つの地域で相次いで開設されました。

保育所は地域の集会所や寺などを使って設けられ、地域住民が運営委員会を作って運営しました。市立でも私立でもない「地域立」です。保母は婦人会のメンバーなどが務めました。経費は行政からの補助金や保護者から集める入所費で賄いましたが、どこも経営は苦しかったということです。1963(昭和38)年には札幌市内22施設で札幌市季節保育所連合会を設立。札幌市に補助金の増額などを働きかけています。公立の保育所や幼稚園が整備されるまで、住民自らが地域の子育てを支えたのです。

厚別季節保育所

1949(昭和24)年～1970(昭和45)年

厚別の4つの季節保育所では一番早く1949(昭和24)年に、厚別中央の安楽寺に開設されました。5年後の北海道新聞によると、当時札幌市内にあった季節保育所9か所の中で最も多い約100人の子どもたちが通っていたということです。1970年に閉園し、安楽寺が新たに開設した学校法人・やすらぎ学園の厚別幼稚園に引き継がれました。



安楽寺所蔵

山本季節保育所

1953(昭和28)年～1983(昭和58)年

地域の集会所・山本倶楽部に開設されました。子どもたちの後ろに「山本保育所」という看板が見えます。敷地は写真にあるように、木のフェンスで囲われていました。これは保育所の周辺に排水路があったため、子どもたちが外に出て落ちたりしないようにするためでした。



1957(昭和32)年

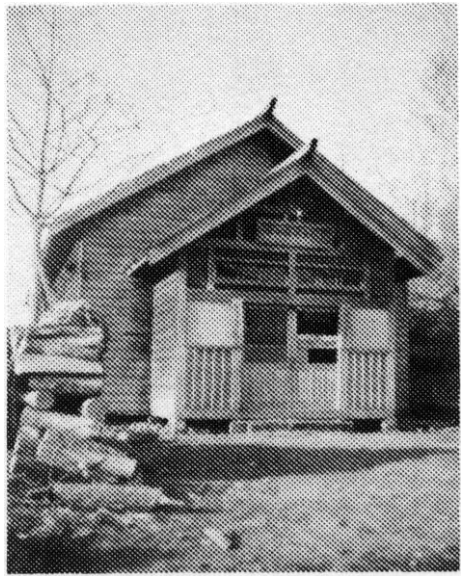


「小野幌開基百年」(1988・昭和63年)より

小野幌季節保育所

1957(昭和27)年～1984(昭和59)年

小野幌神社隣の小野幌集会所に開設されました。この集会所は、小野幌小学校の改築の際に住民たちが旧校舎の古材を譲り受け、作ったものです。今も同じ場所に小野幌会館が立っています。「小野幌開基百年」によると、毎年35人前後の子どもを受け入れ、朝7時半頃から夕方5時過ぎまで預かっていたということです。



下野幌季節保育所

1952(昭和27)年～1970(昭和45)年

左の写真は1937(昭和12)年に下野津幌八幡神社の下に地域の人たちによって作られた集会施設「下野津幌倶楽部」です。保育所はここに設けられました。

地域が支えた季節保育所
～厚別季節保育所～



運動会
開設当初から、他にも円山動物園見学、親子遠足、保育所一泊、小学校見学などを行っていました。



20周年記念祝賀式(1973・昭和48年5月2日)
春の入所式に続いて行われました。保育所を支える地域の人たち20人余りが写っています。



札幌市季節保育所連合会から
運営委員長に贈られた表彰状
文面にある「もっとも困難とする本事業の推進」という言葉に、運営に携わっていた人たちの思いが込められています。



開設当時　保母と33人の子ども



1955(昭和30)年　保母と45人の子ども



1963(昭和38)年　保母と27人の子ども
滑り台は1956(昭和31)年設置。他にも青年団が山本神社の裏に全長180m、幅3mのグラウンドを造成。

写真:「山本開基百年記念誌」(2008・平成20年)より

山本婦人会と山本母の会の事業日誌に保育所の運営状況が記録されていました。その内容を「山本開基百年記念誌」が紹介しています。
○開所期間　概ね5月1日から11月2日
○保育時間　午前8時～午後5時
　(田植え・稲刈り時　午前7時～午後6時)

児童数　1953(昭和28)年　33人(開設)
　　1955(昭和30)年　59人(最多)
　　1967(昭和42)年　39人
　　1973(昭和48)年　14人
　　1983(昭和58)年　8人(閉所)

1970年(昭和45)年には田植えなどで特に忙しい時期にパン給食(パン1個、牛乳1本、リンゴ4分の1、ソーセージ1本)を始めました。

保育料　1954(昭和29)年　1人　250円/月
　　1982(昭和57)年　1人5000円/月

地域が支えた　季節保育所
～厚別季節保育所～



所蔵：信濃小学校

上の写真は1962（昭和37）年に撮影されたとみられる厚別季節保育所のようすです。寺の本堂が教室になり、境内が運動場になりました。中央ではみんなで手をつなぎ、円くなっています。「かごめかごめ」でもしているのでしょうか。一方、右手にはブランコで遊ぶ子どもたちが写っています。奥にはブランコの支柱とみられる木の柱が見えます。子どもたちが握っているのは鉄製の鎖ではなく、ロープで、手作り感のあるブランコだったことがうかがえます。立ってこいでいる姿も見られ、子どもたちの元気が伝わってきます。

右の写真は保育所の運動会のようすです。1968（昭和43）年頃のものとみられます。背景に写っているブランコは鉄パイプを組み立てて作られています。木製から鉄製に進化したようです。







所蔵：安楽寺

地域が支えた　季節保育所
～小野幌の閉所式～



季節保育所では、毎年春には開所式が、秋には閉所式が行われていました。小学校の始業式、終業式と同様、季節の風物詩として新聞などでもよく取り上げられていました。右の写真は小野幌季節保育所の秋の閉所式のようすです。1954（昭和29）年ごろのものとみられます。34人の子どもたちと保母さん、運営委員などが写っています。

保育所に通った人たちに思い出を聞いてみると、「小野幌小学校は複式学級だったので、同じ年の子どもは、保育所から小学校を卒業するまでずっと同じクラスだった。保育所は今に続く長い付き合いの始まりだった。みんな仲がよかった」、「隣にある小野幌神社で木登りをした」、「昼寝をするのがいやで、なかなか寝なくて保母さんに怒られた」、「保育所の周りには山ぶどうなんかが生えていた。秋の実も食べたけど、春に出てくるツルの芽も食べていた」。自然豊かな環境の中で、のびのび仲良く育ったんですね。



左側の壁には子どもたちの描いた絵が貼られている。



右側には閉所式の式次第が貼り出されている。

一、所長挨拶
一、運営委員長挨拶
一、お母さんありがとう
一、卒業児童に記念品提供
一、卒業式の歌
一、来賓お祝辞
一、父兄の謝辞
　などの式次第が読み取れる。